

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 南禅寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・東山の山麓に位置する境内は、歴史的建造物及び樹木等により一体的に構成されている。
- ・三門の上から西を見ると京都市内が一望でき、ビルやホテル等の高層建築物だけでなく、遠くの西山まで見える。
- ・南はホテルや蹴上浄水場、北は緑の間から学校やマンション等が見え、遠くの北山まで見える。



1-1 中門の東側から参道（西）への眺望
：門前通りの駐車場や並木が見える。



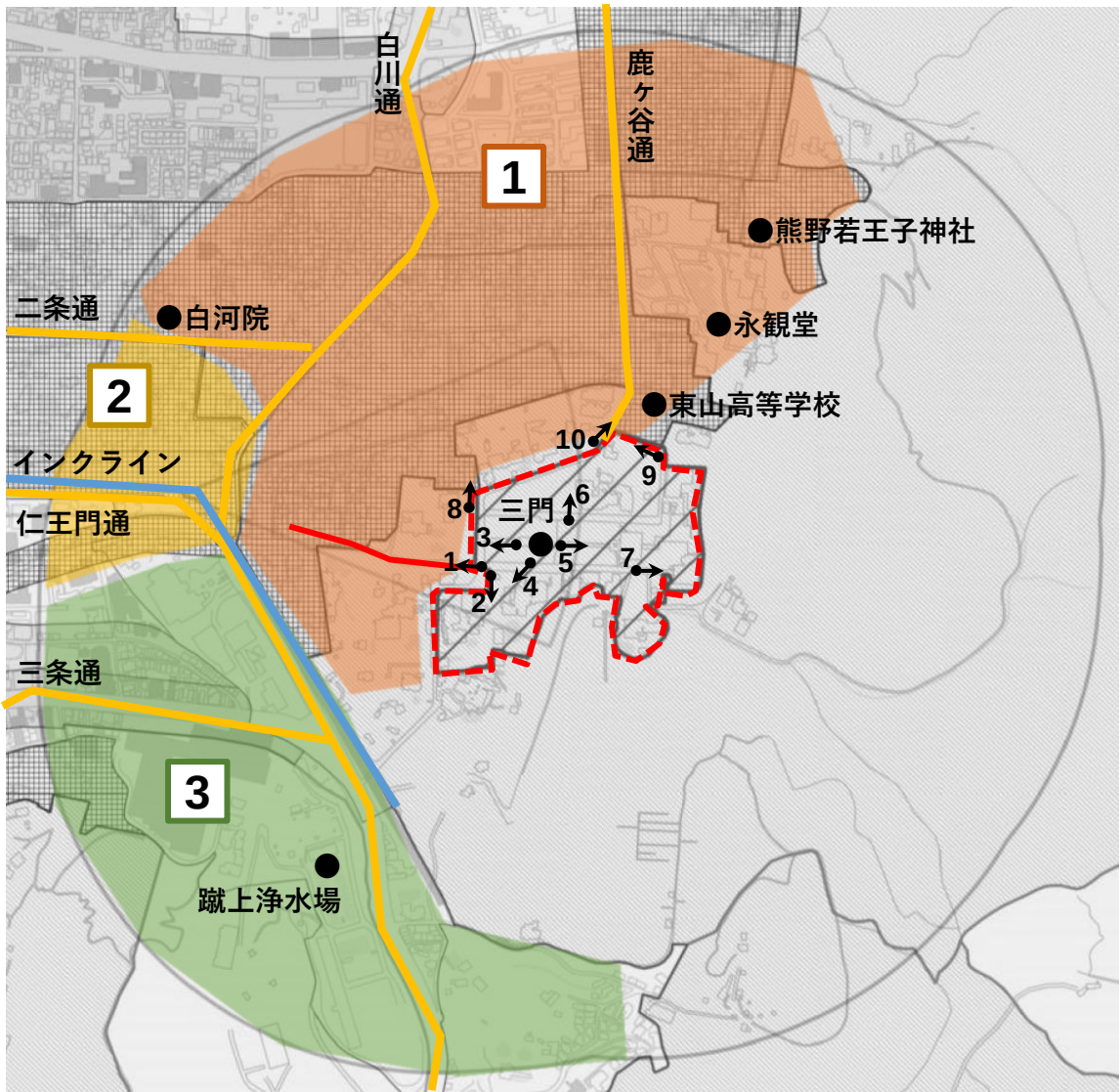
1-2 中門の東側から南への眺望
：視点場外の建築物は見えない。



1-3 三門上から西への眺望
：京都市内の高層建築物が見え、遠くに西山が見える。



1-4 三門上から南西への眺望
：ホテルが見える。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



1-5 三門上から東への眺望
：法堂と東山が見え、境外の建築物は見えない。



1-6 三門上から北への眺望
：学校やマンション等が見える。



1-7 法堂の南側から本坊（東）への眺望
：本坊のほかに建築物は見えない。



1-8 視点場北西から北への眺望
：周辺の寺院（南禅寺塔頭）等の塀が見える。



1-9 視点場北端から西への眺望
：学校が見える。



1-10 大寂門（北門）の南から北への眺望
：学校の一部が見える。

■ 2 南禅寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・ 社寺などにより歴史的環境を醸すとともに、京都の近代化に寄与した遺産を多数残している。
- ・ 社寺境内や参道の樹木だけでなく、蹴上浄水場等の大規模敷地の樹木が、山地部の森林と一体となって量感のある緑地空間を形成している。
- ・ 周辺は敷地規模が比較的大きい住宅の生垣や庭木等により、緑の豊かな町並みとなっている。



2-1 南禅寺参道から東への眺望
： 門前に並ぶ店舗、駐車場、松並木が見える。



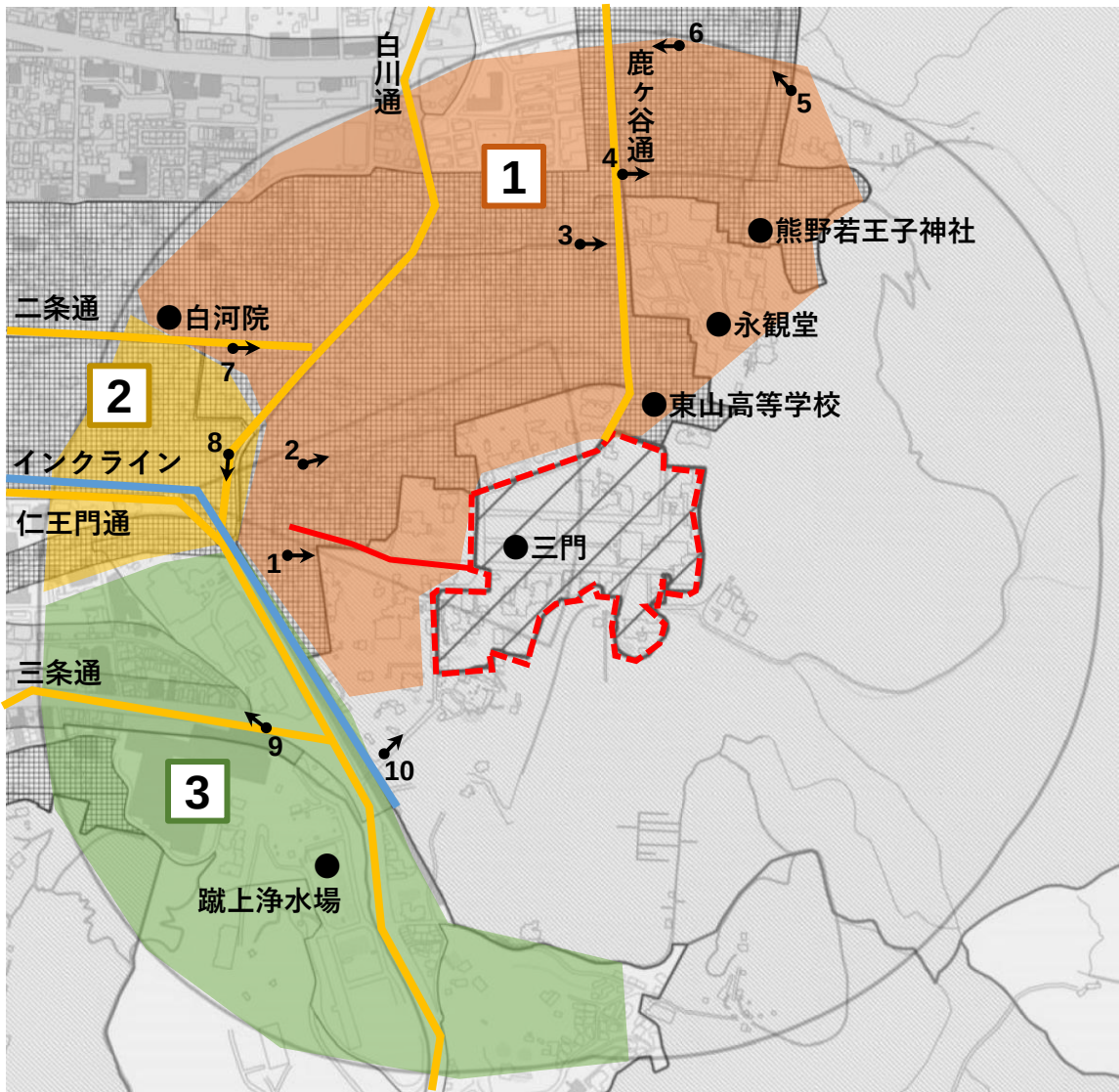
2-2 疏水のある小路から東への眺望
： 疏水の南側が宅地になっており
新旧の建築物が見える。



2-3 永観堂門前西側から総門への眺望
： 永観堂の総門と門前に並ぶ
木造建築物が見える。



2-4 冷泉通から東への眺望
： 古民家と駐車場が見える。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 哲学の道から西への眺望
： 住宅の瓦屋根、遠方に真如堂や岡崎神社の森
のほか、ホテルが見える。



2-6 光雲寺西側から西への眺望
： 北側に庭園の生垣、南側に住宅と
駐車場が見える。



2-7 二条通から東への眺望
： 沿道に並ぶ邸宅や保養所、
遠くに東山が見える。



2-8 白川通から南への眺望
： 東側に家屋、西側に琵琶湖疏水記念館、
遠くにホテルが見える。



2-9 三条通から西への眺望
： ビル、マンションの間に古くからの
木造建築物が残っている。

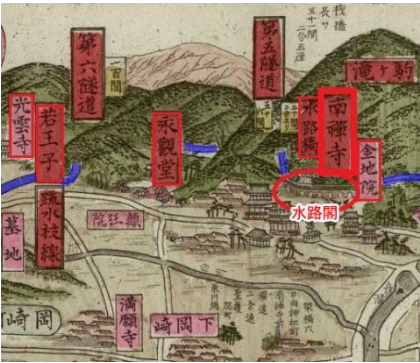


2-10 おじりまんぽから北東への眺望
： 沿道の社寺や邸宅の緑が連なる。

3 南禅寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 南禅寺北側			
ア エリアの歴史等	・鎌倉期の南禅寺創建とほぼ同時期に門前町が形成された。 ・田畑を横切る永観堂や若王子神社への行路も往来が盛んであり、農村集落としての一面と景勝地の観光事業を併せ持った地域であった。 ・明治期、南禅寺門前村・禅林寺門前村・光雲寺門前村が合併し南禅寺村となった。 ・上地令により南禅寺は寺領の多くを失い、琵琶湖疏水建設事業と合わせて地域の環境は大きく変化した。 ・南禅寺境内に水路閣が建設(明治21年)され、失った寺領は別荘地化した(図3-1)。 ・大正期に京都市電や鉄道が整備された(図3-2)。		
	・南禅寺の北側は、明治28年以降、南禅寺や塔頭の跡地では、庭師・小川治兵衛が琵琶湖疏水の水を利用して手がけた広大な庭園を構えた別荘地となり、特別な景観が形成された。別荘群が作り出す緑豊かな空間は今日も維持されている。 ・南禅寺周辺の塔頭が、南禅寺と一体的な景観を作り出している。 ・南禅寺を北方向に進むと、禅林寺(永観堂)や熊野若王子神社があり、多くの文化財建造物と美しい自然が調和した環境を維持している。各門前には古民家が残っている。 ・哲学の道は、疏水沿いの桜並木が自然豊かな落ち着いた景観をつくり、西側には寺院や古くからの家屋の瓦屋根が見え、古くからの町並みが保全されている。 ・エリアの北西は住宅が多く、新旧の建築物が混在する。 文化財等 ：金地院東照宮、野村碧雲荘、南禅院庭園		
ウ 景観形成方針	岡崎・南禅寺特別修景地域	風致地区	山並み背景型美観地区
	東山の借景空間の保全を図る。南禅寺参道沿いでは、趣のある参道景観を保全する。	各屋敷の疏水の水を利用した広大な庭園を結ぶ水路網により、極めて豊かな水環境が保たれている。	主要な通りから沿道の社寺と一体に東山の山並みを眺望することができる。
エ 求める配慮事項	連続感のある和風塀と既存樹木の保全を図り、建築物は日本瓦ぶき和風外観とし、軒の連続性に配慮する。	また白川から屋敷群の中を抜ける美しい道は、注意深く配置された樹木塀、数寄屋等の間を縫い、参道のような趣があり、これらの風致を維持する。	社寺周辺の建築物については、勾配屋根の和風基調の外観を基本とし、敷地内の緑化を充実し、歴史的な町並み景観の保全を図る。

参考写真等



3-1「京都明細新圖 附名所古跡疏水線路細見」明治24年(1891)



3-2「1940京都都市計畫圖」昭和15年(1940)



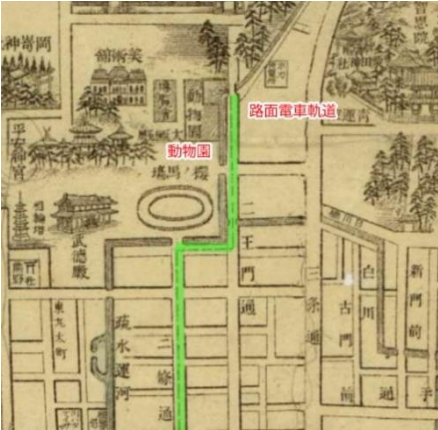
3-3 別邸群



3-4 哲学の道

2 南禅寺西側			
ア エリアの歴史等	・鎌倉期に南禅寺創建によって開けた地域である。仁王門通の名は鴨川東の頂妙寺仁王門に由来するとされる。江戸期は南禅寺領南禅寺門前村として農村集落としての一面と、茶屋など景勝地観光事業を併せ持った地域であった。 ・明治期には琵琶湖疏水事業の一環で地域では船溜まりが築造され、仁王門通には第四回内国勸業博覧会(明治28年1895)開催に合わせて路面電車(後の京都市電)が開通し、明治36年(1903)に京都市記念動物園が開業した(図3-5)。 ・山県有朋が別邸として建築、明治29年(1896)に完成した無鄰菴がある。 ・大正期には京都市電蹴上線や京阪電鉄京津線が整備され、岡崎の文教区域と南禅寺の景勝地を結び付ける地域として発展する。		
	・岡崎公園一帯はわが国でも有数の文化施設が集積した地域であり、白川通沿いには、京都市動物園の東エントランス、国際交流会館、琵琶湖疏水記念館といった施設がある。 ・二条白川周辺には、庭園のある別邸や保養所といった比較的規模が大きい邸宅が並んでいる。 ・南禅寺前の交差点を西に入ると、北側には無鄰菴の塀と植木が続く。国の名勝に指定されている無鄰菴の庭園からは東山の借景を望むことができる。 ・路地に入るとマンションや近年建築された住宅が並んでおり、調和のなかにも変化のある景観が見られる。 文化財等 ：無鄰菴庭園、瓢亭		
ウ 景観形成方針	岡崎・南禅寺特別修景地域	岡崎公園地区特別修景地域	風致地区
	近代的・都市的景観の創出、近代化に寄与した諸施設のデザインの継承による修景を図る。	歴史の重層性を感じさせる建築物と水や緑に彩られた広々とした空間の保全、継承を図る。	山ろく部の住宅では、緑豊かな日本瓦ぶき和風建築による落ち着いた環境を形成している。
エ 求める配慮事項	道路側に植栽、生垣、和風門、和風塀のいずれかを設ける。	京都市動物園の周辺では、周辺の建築物や動物の展示空間に配慮しつつ、疏水沿いや動物園内の緑豊かな風致との調和を図る。	邸宅群の景観保全、庭園群等から東山の借景を望む視線の方向となる南禅寺参道における高さの抑制、意匠、形態等に重点を置く。

参考写真等



3-5「京都及附近光景全圖 第五回内國勸業博覧會記念」明治35年(1902)



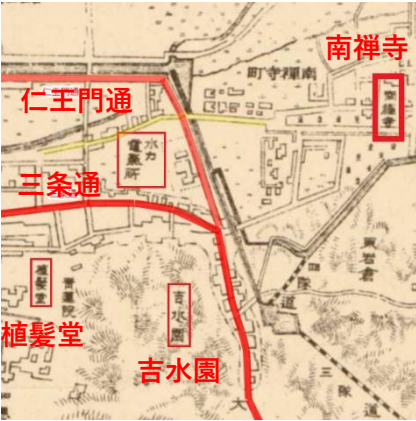
3-6 京都市動物園



3-7 歴史ある料亭の建物



3-8 二条白川付近の邸宅等の町並み

3 南禅寺南側			参考写真等
ア エリアの歴史等	・平安期には三条街道の鴨川以東から山科区日ノ岡に至る街道沿い一帯は粟田口と呼ばれ、交通はもとより戦略上の重要拠点でもあった。 ・天正18年(1590)に三条大橋が架橋され、粟田口焼物をはじめ数多くの商家が建ち並び、東国からの玄関口として賑わった。 ・明治24年(1891)には琵琶湖疏水を利用した蹴上発電所が運転開始し、華頂山山麓の保養遊園地「吉水園」の園内に明治33年(1900)「都ホテル」が創業し京都の近代化に寄与した(図3-9)。 ・大正期には京都市電蹴上線や京阪電鉄京津線が整備され、古来より交通の要衝であった三条通周辺は、青蓮院や南禅寺の門前町から市街地へと変化していった。		
	・三条通沿いの蹴上インクラインや蹴上発電所、蹴上浄水場が景観の核となっている。 ・明治23年には琵琶湖疏水が開通し、明治28年の平安遷都千百年紀年祭と第4回内国勸業博覧会の会場を経て岡崎公園となり、沿川には動物園、府立図書館、市美術館など施設が立地し、現在の岡崎公園の姿へと発展してきた。 ・明治24年に完成した蹴上発電所、世界最長であった傾斜鉄道の下に、三条通から南禅寺へ通じる歩道として造られたアーチ型のトンネル（ねじりまんぼ）、明治45年から給水を開始した蹴上浄水場の建築物は、いずれも赤煉瓦造りで、当時の姿を残して現存している。 文化財等：蹴上発電所		3-9 「明治京都」 明治30年(1897)頃  3-10 インクライン上からの眺め  3-11 インクライン下アーチ型トンネル  3-12 三条通から東への眺望 東山が見える。
ウ 景観形成方針	風致地区	沿道型美観地区	
	山ろく部の住宅では、緑豊かな日本瓦ぶき和風建築による落ち着いた環境を形成している。	東大路以東の三条通では、伝統的木造建築物やホテルが連なり、蹴上発電所やインクラインなどの近代化遺産を残す。沿道の社寺、近代化遺産越しに東山の山並みを眺望することができる。こうした景観特性の継承を基本方針とする。	
エ 求める建築計画等に 配慮事項	邸宅群の景観保全、庭園群等から東山の借景を望む視線の方向となる南禅寺参道における高さ、意匠、形態等に重点を置く。	沿道に面した建築物等は、高さを抑え、京都らしい繊細で洗練された勾配屋根を持つ和風意匠による通り景観の保全に配慮する。	

3-1 「京都明細新圖附名所古 跡疎水線路細見」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-2 「1940京都都市計畫圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-1 「京都及附近光景全圖第五回内國勸業博覽會記念」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-1 「明治京都」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）